



# 山笠 - 福智 - 熱き思い

年に一度、人と人をつなげる場所がある。  
祭りは地域をひとつにし、地域を育くむ。  
山笠の熱きDNAは親から子、子から孫へと引き継がれていく――



東和會



五流會



栄友會

### 白鬚神社

737年創建。「五穀豊穡」、「商売繁盛」などの御利益がある氏神として称えられる。同じ祭神をまつる須佐神社と合併したと伝わり、その名残なのか白鬚神社の神輿には「須佐」の文字が刻まれている。




酒友會



壹心會



後谷同好會

囃子の音色  
担ぎ手のかけ声が  
五月晴れの空に  
響きわたる

各地区自慢の山笠が伊方に集結。  
迫力ある武者人形が躍動する様子は、  
戦国時代にタイムスリップしたかのよう。  
人々の思いをのせ山笠は進んでいく――

### 赤坂八幡社

奈良時代初期の「隼人の乱」に、多くの民が出兵。犠牲者を悼み、宇佐八幡宮から分霊をうけ887年に創建した。弓で武功を挙げた人が多く「射方」と呼ばれたことが伊方の起源と伝わる。(方城町史参照)




最終日、山笠とぶつかり合いフラフラになりながらも、143段ある白鬚神社の急傾斜の階段をのぼっていく。



赤坂神社 AKASAKA × SHIRAGA 白鬚神社

## 神幸祭 2018

THE SPIRITS OF YAMAKASA



山笠競演会が開催されない中、電飾に煌めく山笠が東古門地区に5基集結。

今年、赤坂八幡社の地域からは1基のみの参加となった。その法被に刻まれた文字は「一致団結」。笑顔が絶えない後谷地区の団結力が伝わってくる。

伊方の赤坂八幡社と白鬚神社の神幸祭が5月4日から2日間開催されました。江戸時代から続く無病息災を祈る祭事は、ときに激しく、ときに厳粛に、大勢の人に見守られながら初夏の到来を故郷に告げました。

地域力の衰退が課題となる中、老若男女が世代を超えて共に取り組む伝統行事は町の貴重な財産。祭りは地域をひとつにし、地域を創り、育くみます。祭りへの思いは次代を担う子どもたちにしっかりと受け継がれていきました。



「岩井喜則さんが囃子を伝承するために残した冊子。伊方にも多くの弟子を輩出した。」